営農ウィークリーNEWS

水稲斑点米カメムシ類防除の時期ですよ！

スタークル豆つぶの上手な効かせ方

本年も、京都府はじめ全国で水稲斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にしているため、耕種的には出穂の１０日前までに畦の草刈りを済ませることが重要です。

現在、晩生の出穂期ですので、「スタークル豆つぶ」の施用上の注意点を確認しましょう。

1　いつ撒くのか ⇒ 穂揃い期～傾穂期（出穂７～１０日頃）、イネカメムシは出穂期。

2　撒く量は？ ⇒ １０ａ当たり１袋（２５０ｇ）

3　水田の幅 ⇒ 幅２０ｍ以下は畦から均一に手撒き散布、幅２０～３０ｍは畦から均一にひしゃくで散布

4　水深は？ ⇒ ３～５ｃｍ（深すぎると薄まるため効果が落ちる場合がある。４～５日は湛水状態を保つ。７日間は落水、かけ流しはしない。）

5　効果発現はいつ頃か ⇒ 散布後３日程度かかる。効果は１０日前後持続する。

6　大雨が予想される時は ⇒ 散布しない。晴天が続く時、効果が高い。

（クミアイ化学資料より）

晩生品種の場合	８月	出穂期	９月	１０月

第１回　カメムシ類防除　キラップ粒剤などを使用。※イネカメムシがいた場合

第２回　カメムシ類防除　スタークル豆つぶ、スタークル粒剤

第３回　カメムシ類防除　スタークル豆つぶ、スタークル粒剤　※発生状況に応じて

ーＴＡＣ　informationー

出穂期でも葉色が薄ければ追肥を

今年の京都市の平均気温は、平年に比べて６月が約2℃、７月が3℃、８月（15日まで）が約1℃高くなっています。水田では基肥の溶出が早まっていると思われます。高温の登熟期に葉色が薄い場合、光合成量が落ちて、白未熟粒が多くなることがわかっています。また、その場合、窒素１～２ｋｇ/１０ａの追肥でも、食味に影響するたんぱく質含量まで増えません。例年より、葉色が薄いと思う場合は、登熟期の追肥をしましょう。

ＪＡ京都中央　令和７年９月２日　No.771　作成者 上田　由里子

JA京都中央のファミマルシェ

2025.9.19(金) 10:00～

※売り切れ次第終了
※雨天中止

開催場所

ファミリーマート
洛西新林本通店
京都市西京区
大枝西新林町５丁目1番2

粘りが強く特有の歯ごたえの「京おくら」と皮は薄く艶があり、果肉がとても柔らかい「京都茄子」を是非お買い求めください！

JA_KYOTOCHUOU